

山上 恭加さんの感想文

私は、3月27日に鹿児島へ行きました。観光目的ではなくて戦争で亡くなられた方々の慰霊碑などへと向かいました。

鹿児島へ向かうフェリーの中でも戦争はどうであったかということをもっと学びました。戦争で多くの方が亡くなられたと聞いていましたが330万人近くの方が亡くなられたそうです。しかも戦争は日本だけでなくフィリピンという国のなかでもあり、そのフィリピンでは60万人の方が亡くなり、その半数は島の人々だったといえます。その話を聞いて「戦争は人の命を奪うだけでなく、生活なんかまで奪ってしまうんだ」と思いました。団長の大長さんが何回もこうっておられました。「今、平和だからこんなことができる。生きていられる。平和というのはとっても大切なんだよ。忘れちゃいけないよ。」と。今平和でいられることに感謝しなくちゃいけないと知りました。

そのあといろんなところを巡りました。私が1番印象に残っているのは『富屋食堂』で聞いた話です。語ってくださったのはその方のおばあちゃん、『特攻おばさん』と呼ばれた富屋食堂を営む『鳥浜とめさん』の話でした。

富屋食堂は戦争中、軍の指定の食堂になっていて特攻隊員の世話を献身的にしていた食堂です。そこには全国各地から集められた隊員たちがおり、毎日のように通っていたそう。その中に台湾人の隊員が居て「今度は帰れません。」と言い、国のアリランを大声で歌い、「今度狙われるのは九州です。僕が行かなければならないのです。僕たちが早く行かなければ日本は壊滅します。一兵たりとも南九州へ上陸させるか！」と言って出て行ったそうなのです。またある人は戦争に行くとき、とめさんに「僕は戻ってきます。ホテルとなって戻ってきます。」と言い戦争へと向かっていきました。そして、その日の夜9時ごろ本当に1匹のホテルが富屋食堂に舞い込んできたそうです。

そして終戦後、とめさんは孫たちを連れて亡くなるまで近くの慰霊碑に花の手入れに行っていたそうです。「花を枯らすわけにはいかない」とめさんだけがやっていたそうです。

私は「戦争はつらい・苦しい・大変」としかおもっていませんでした。しかし、実際に体験された方の話を聞くと想像を絶するものでした。こういう体験ができて本当に良かったと思います。戦争のことは忘れてはならないもので、どんどん語り継いでいかないとはいけません。戦争があってこそ今の日本がある。1人1人が平和というものがどういうことなのかちゃんと考えていくべきなのです。

村田 詩歩さんの感想文

3月28、29、30日に鹿児島へ戦跡訪問へ行き、これから書くことは、私が鹿児島へ行って感じたこと書きます。

鹿児島の知覧市に飛行場学校分教所がありました。いまそこには平和会館があります。その隣には、当時につかわれていた、三角兵舎が復元されていまも残っていました。

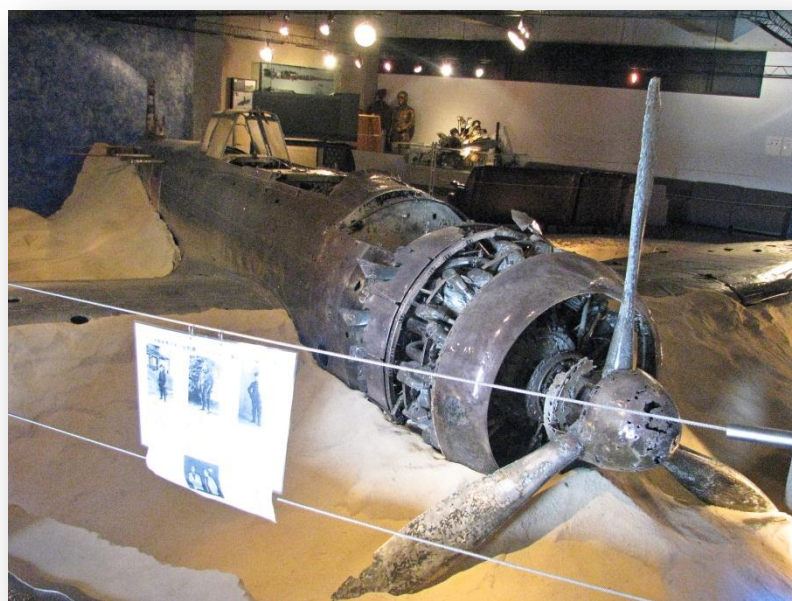
次に訪れたのは特攻銅像と母の像がある場所でした。その像の近くには、昔の映画につかわれていた飛行機がありました。

平和会館の中には戦争で使われた本物の戦闘機『疾風（はやて）』がありました。そこで、お話を聞きました。

もともと知覧の町は静だったそうです。けれど戦争で沖縄にもっとも近かったので、この知覧に飛行場ができたそうです。そして悲しいことに、その飛行場には14才の少年が入っていて、17～18才になれば戦闘機に乗って戦ったそうです。

2日目の最後には、ホテル館という所に行きました。そこには、鳥浜とめさんという女性が富屋食堂をしていたそうです。とめさんは亡くなる前までは、ずっとおまいりをしていたそうです。

3日目には開聞岳と花瀬海岸にある、死生の扉へ行きました。いまあらためて思うと、戦争はおそろしいもの、汚らわしいものだと思います。今、私たちは“平和”というこの2文字を大切に、今を生きていかなければならないと思いました。



鯨江 大地さんの感想文

鹿児島に、戦争のことを勉強しにいきました。

今は、東北で地震があったので、ふざけずに戦争のことを勉強できました。

鹿児島に行くのははじめてだったけど、前に行った沖縄県と同じようなところでした。

船の中でねとまりするのははじめてだったので、初めてのことばかりでした。新しい友達もたくさんできてよかったです。船でねているときは、9時から10時までねれませんでした。船からおりたとき、とてもすごい音がしました。上を見たら、大きな船が目の前にあって、ぼくはこんなに大きな船にのってきたのかと思いました。でもこれからは、戦争の悲さんなところに行かなければいけないのかと思いました。

たくさんの行った場所の中で一番いんしょうに残っているのは、桜島でした。本当にながれだしたよう岩の上をバスで走っているんだ、とても大量のよう岩がながれていることがわかりました。でも、見ていたらただの岩みたいでした。

そのあとに、また船にのりました。15分ほどで終わったけど、陸が近づいてくるのが見えたのはたのしかったです。

楽しいことや悲しいことがたくさんあった鹿児島の旅行だったけど、いろいろな所に行けてよかったです。

